

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2014.3 March vol.28 -1

二月定例議会会報生口

2月12日から3月11

日まで開かれた定例議会では、新年度予算案及び今年度補正予算案、消費税導入に伴う料金改定に係わる条例改正など77件が提案され、すべて多数または全会一致で可決しました。

また県民請求によるエネルギー条例の議案は否決になりました。

エネルギー自立条例

制定請求は否決となる

県内有権者の14.3%の8万3千人余が署名した「エネルギー自立地域推進条例」の制定請求が提案されました。

この議案については、代表質問、一般質問でも質問がいろいろと出ましたし、付託された総務委員会でも議論が重ねられました。しかし、再生可能エネ



ルギーによる自立地域の実現は難しいという意見を付して知事が提案されたことに、多くの議員が呼応したため、委員会では否決されてしまいました。

最終日の本会議では、私は議案賛成の立場から討論に立ち、条例制定の必要性を訴え、議案は可決すべきものと述べましたが、残念ながら、採決では私

を含め6人の賛成しかなく、多くの県民の皆さんを失望させてしまうことになりました。

知事は、再生可能エネルギーの利活用に取り組む姿勢を示されましたが、そうであるならば、最初にもう少し歩み寄る姿勢を示すべきではなかったでしょうか。これからの県の取り組みを注視するとともに、全員一致で可決できる条例制定を模索していきます。

今回も一問一答方式で一般質問をしました。質問内容については、つぎのとおりです。

1. 看護師確保について

看護師の県内就職を促す修学資金の拡充がなされていますが、新たに創設された特別修学資金は利用が少ない状況にあります。最終学年あるいはその前の学年で応募し、一年間のみ一括貸し付けという形で利用し

とによる情報管理の問題につ

くいことや、就職先の医療機関が限定されていると思われる募集の仕方に問題があるのではないかという点を指摘しました。これに対して、見直しを考えるとの答弁がありました。より利用され易いものにし、看護師の皆さんの県内就職が増えることを期待します。

また、看護師の皆さんの職場環境改善、処遇改善も求められています。離職率が下がる傾向にありましたが、一昨年からまた上がり始めています。働き続けられる職場環境改善の取り組みを求めました。

2. 高校授業料有償化へ

高校授業料無償化が、安倍政権になって有償化となり所得制限が導入されます。この事業内容や手続きについて質問しました。公平であるべき教育に所得制限という差別を持ち込むことへの危惧と、様々な家庭事情に相談体制を整備することを求めました。

学校で課税証明を集めること

いては、封筒に入れて提出するようにし、個人情報の保護に努めるとのことでした。

高校3年間で4回、課税証明を全員が提出しなければならぬことよって家族も大変ですし、学校事務の対応も大変です。

3. 再生エネルギー活用推進

エネルギー自立地域推進条例が住民請求で提案されましたが、知事はこの条例案に付した意見にこだわり、条例制定が難しいという立場に固執しています。

しかし、省エネ、再生エネルギーの活用については進めていく考えは持っています。そうであれば、それをより実効性あるものにしていくための条例は必要ではないかと質しましたが、請求されている条例が頭にあるのか、知事がいうエネルギー政策の推進のための条例制定すら考えを示そうとしました。質問時間がなくなつたので、もつと議論しましょうというのを述べて、質問を終わりました。

競争力ある産業の育成

1月27日、農水商工会の県内調査に委員外議員として参加し、様々な角度から競争力のある産業を育成する施策展開について、雲南市、松江市における食品製造業を中心に調査しました。

本田商店工場内見学



固定概念にとらわれず

チャレンジ

出雲そばを中心とした製麺業を営む雲南市の(有)本田商店では、工場の見学と本田繁社長から説明を受けました。変化に對して柔軟に取り組むという

姿勢で、まずやってみて結果からまた考えるという方針を社員にも伝え、固定概念にとらわれずチャレンジしていくことで業績を伸ばしているということでした。そして、相手の要望に応えられるよう仕組みを考え、変えていくという形で販路を広げています。県への要望としては、そばの栽培を広げてほしいということ、また働きやすい環境を作るために介護、保育の充実を求められました。

耕地を守り、生態系を円満に

6次産業化に取り組む農業生産法人(有)宝箱の茶畑や製茶



茶畑で事業説明する松浦社長

工場の見学をしました。里山の荒廃を防ぎ、手を加えることで耕地を守り、生態系を円満にするという松浦幸一会長の考えのもと、事業が進められています。有機農法でお茶を栽培し、そして自社で製茶することで有機JAS、島根県エコロジー農産物の認証を取得し、販売しています。販売にあたっては、消費者の小さな意見も取り入れ、より消費者ニーズに合った商品の提供を心掛けており、ここでもチャレンジしていく姿勢を感じました。

待ちから攻めへの姿勢で

黒田町にある高齢者専門の配食と調理済み食品製造販売、買い物支援サービスを手掛けるモルツウエル(株)に行き、当日、竣工したばかりの新社屋で、野津積社長から会社概要と事業内容について話を伺わせていただき、また商品の試食もさせていただきました。待ちから攻めへの姿勢を熱く語る野津社長の意気込みを

感じるとともに、人材育成にも力を入れており、成長著しい会社の息吹を感じました。



熱く取り組みを語る野津社長

今回の調査は、それぞれの持ち場で果敢に挑戦し、時代の動きを敏感に察知しながら地元で頑張る人たちの取り組みを調査しました。こうした人たちが島根にどんどん増えていき、地域経済の活性に繋がっていくことを期待しますし、また、行政も一緒になつて取り組んでいく施策を展開していくよう、私たちも働きかけていきたいと思えます。